

ツリバナ

Euonymus oxyphyllus

ニシキギ科



ツリバナ。円内は実と種子

名前の由来

花や実が吊り下がっていることから。別名、エリマキ。
漢字名：吊花

形態的特徴

樹高4～5m。幹の樹皮には白い斑がある。葉は卵形～長楕円形で長さ5～10cm、先はとがり細鋸歯縁、対生する。花は淡緑色でやや紫色を帯び、5数からなり、径約8mm、5～6月開花、集散花序につく。果実は径約12mmの球形、9～10月赤熟、5裂し、朱赤色（橙色）の仮種皮に包まれた種子が出る。

類似種との見分け方：ツリバナは果実が球形で翼がないこと、花びらが5枚でやや紫がかかった淡緑色であることなどで区別できる。また、冬芽が細長く鋭くとがっているのもツリバナの特徴。



ツリバナの花。5枚の花びらを持つ

ツリバナの実。翼がなく球形

開いたツリバナの実。5裂し、種子が見える



ツリバナの葉。先がとがり、細かいギザギザ（細鋸歯）がある



ツリバナの樹形



ツリバナの樹皮。灰色、滑らか、白い斑あり



ツリバナの冬芽。2つずつ向かい合う。6～15mm



ツリバナの葉の付き方。2つずつ向かい合ってつく（対生）

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期						■						

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

山地に生える。湿った林内。

分布：国外分布は、南千島、朝鮮、中国。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域か。

十勝地方生育状況は、全域か。

繁殖生態・寿命

5～6月開花、集散花序につく。果実は径約12mmの球形、9～10月赤熟、5裂し、朱赤色（橙色）の仮種皮に包まれた種子が出る。寿命は不明。

他生物との関わり

不明。

植栽関係

挿し木では活着しない。



類似種のマユミの実。
4つの稜（カド）がある



ツリバナ。湿った林内で低木層を形成する

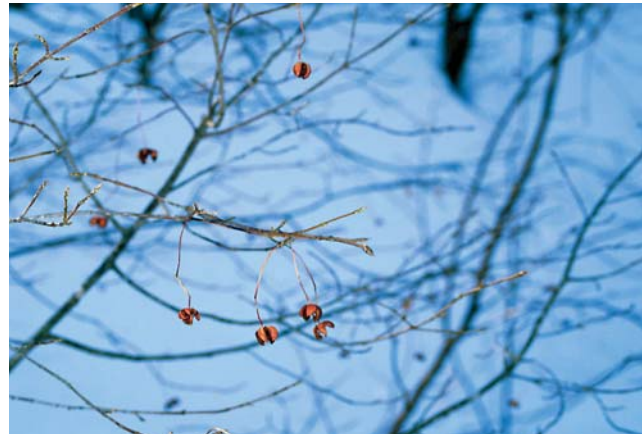
興味深い話

■庭園・公園樹などに、材は細工用として利用され、また果実をアタマジラミの駆除に用いる。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。他地方ではコンケニ（曲がる木の意）、クニッ（弓柄の意）と呼ばれる。



ツリバナの花



冬のツリバナ。枯れた実が残っている

配慮事項

挿し木では活着しない。

参考文献

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

緑化樹の用土別によるさし木発根成績 吉川栄二 光珠内季報23号 p:11～p:13 1975

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ